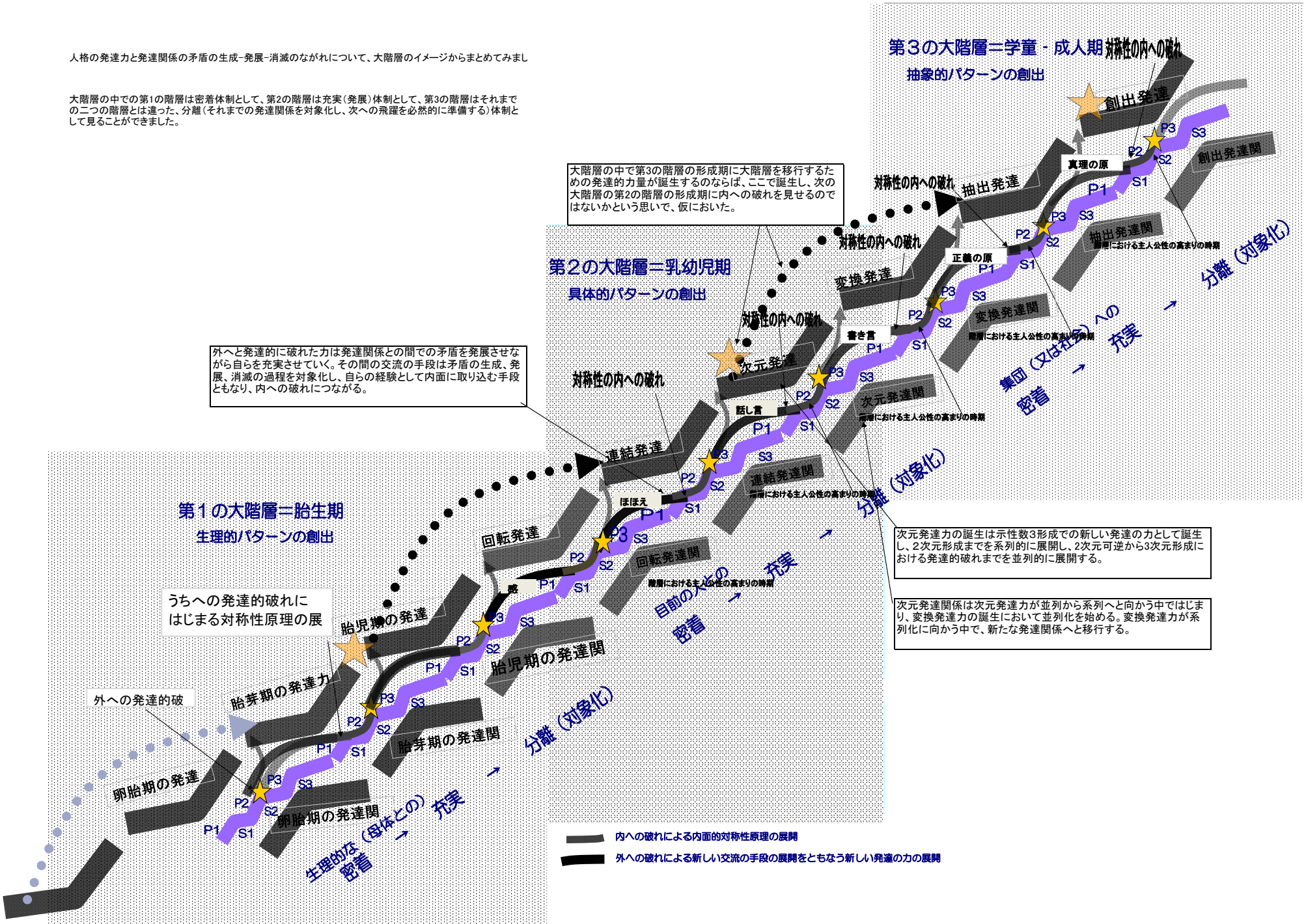
人格の発達力と発達関係の矛盾の生成−発展−消滅のながれについて、大階層のイメージからまとめてみまし

大階層の中での第1の階層は密着体制として、第2の階層は充実（発展）体制として、第3の階層はそれまでの二つの階層とは違った、分離（それまでの発達関係を対象化し、次への飛躍を必然的に準備する）体制として見ることができました。



次元発達力の誕生は示性数3形成での新しい発達の力として誕生し、2次元形成までを系列的に展開し、2次元可逆から3次元形成における発達的破れまでを並列的に展開する。

次元発達関係は次元発達力が並列から系列へと向かう中ではじまり、変換発達力の誕生において並列化を始める。変換発達力が系列化に向かう中で、新たな発達関係へと移行する。

図２　可逆操作の高次化における大階層 - 階層 - 段階理論イメージ